



体は疲れていても 感謝しかないくらい守られて

横田 早紀江

もう184回になるまで、こんなに長い年月「祈り会」を続けていただけてきました。私たちはそういう中で力を頂き、神様を信じて今日までくることができたことを心から感謝しております。

最近ではこの先、世界がどうなっていくのかわからない—拉致された私たちの子どもたちのことばかり考えているわけにはいかない—ほど危機感をもっています。いろいろな国々がいろいろな思いでうごめいています。国と国との対立から、いつ火花が散るかわからない状況になったら大変だという思いで見えています。もうあまり甘い期待をもつことができない、今までのように幻を思い描いているわけにはいきません。

拉致問題だけではなく、すべてが怖い状況になっていると感じます。世界のトップ・リーダーたちが自国の欲というか、国益というか、そちらに心が先に動いてしまっている。そんなことから、本当に大事なものがだんだんと失われていく、大事なことが取り残されていくのだなということを、今までの流れからも見せられています。それを神様はどのように修復し、物事を固めていかれるのだろうかという思いをもってお祈りするしかなくて、見守っています。

私も日々さまざまなことを思ったりしたりしていますが、私たちを創造してくださった神様のご愛を受け止めて歩みたいと思っています。そして、「神に倣う者となきなさい」(エペソ5:1)というみことばがいつも示されています。けれども、私はとてもそんなところにまで行けない、一歩も近づけないような者です。でも、神様は天地を造られたお方なので、人間の心をも造り変えてくださいます。ですから、心のきよい者、心の優しい者にならせていただきたいと願いながら生活しています。

主人も入院して11か月になります。本来なら転院しなければならぬはずですが、病院の先生方も、「これまでよく頑張ってきたのを見ているし、こんなに疲れているのだから、ゆっくり看させていただきますよ。最後まで責任をもって看させてください」と、病室に来てまで言うくださり、感謝のほかありません。

最近、温熱療法…温泉の砂風呂のような、とても良い成分が入っている砂を薄いマットに入れた物があるのです。それを温めて体に巻いて、その上からトントントントント、あまりきつくはない程度にたたくと、体がとっても温まるのです。主人は車椅子に腰掛

けていて、私が体全体にしてあげるので、何回か砂のマットを取り換えながら毎日小1時間、無理な体勢でするので、すごく疲れます。自分もものすごく汗をかいて少し大変ですが、こうして運動させてもらっているんだと、すべてのことに感謝しております。

それを2週間くらい続けたら、目がはっきりと覚醒した感じになりました。ある時、新聞に「拉致を忘れてはいけない」と、大きな字で書いてあるのを見て、主人も「拉致、忘れてはいけない」と、言うんです。「お父さん、ちゃんと話せたね、すごいね」と。体が温まって、全身の血流が良くなると、不思議なんです、それがちゃんと脳に帰って行って刺激が届くと。それを根気よく続けていけば、さらに話が少しでもできるようになると言われています。

でも、私自身も神様はいつこの世から取られるかわかりません。主人に、「私も家に帰る道で、いつ倒れるかわからないのよ。心臓麻痺まひが起きたらなくなるんだからね」と言うと、「ウンっ」と言って怖い顔になるので、困っているのでしょうか。日々いろいろなことがあります、感謝しかないくらい守られています。

(2019年1月17日の定例祈り会より)